

令和3年第1回ゆりはま創生総合戦略会議 議事録

日時 令和3年6月1日(火) 10時00分～11時30分

場所 湯梨浜町役場 講堂

出席者 宮脇 正道、山田 修平、井土 美智子、石沼 友、遠藤 公章、坂田 康則、岩谷 悟、
木山 敦文、武智 徹、山岡 英之、石原 美樹、加藤 一、岡本 梓、佐相 亜友美
(欠席者:西村 好美)

オブザーバー:鳥取県中部総合事務所県民福祉局副局長 小谷 昭男(コンシェルジュ)

事務局 副町長 亀井 雅議、教育長 山田 直樹、
みらい創造室長 西原 秀昭、係長 音田 将人、係長 谷岡 雅也、
総務課長 岩崎 正一郎、出納室長 森 輝信、建設水道課長 石本 義之、
産業振興課長 遠藤 光秀、企画課長 上井 明彦、町民課長 尾坂 英二、
子育て支援課長 杉原 美鈴、総合福祉課長 竹本 里香、健康推進課長 林 紀明、
長寿福祉課長 西田 貴頼、教育総務課長 山田 志伸、
生涯学習・人権推進課長 山崎 有紀子、中央公民館長 宮脇 一善、
国民宿舎水明荘支配人 小椋 誠、町立図書館館長 杉村 和祐

1. 開会

(事務局) みなさんおはようございます。定刻に2分ほど早いようですけど、ただ今より、令和3年度第1回ゆりはま創生総合戦略会議を開催いたします。私は冒頭の司会進行をさせていただきます湯梨浜町副町長の亀井と申します。どうぞよろしくお願い致します。会議に先立ちまして、宮脇町長の方からごあいさつをお願いします。

2. 町長挨拶

(町長) みなさん、こんにちは。みなさんご多用のところお集まりいただきましてありがとうございます。今日は今年最初の戦略会議という事で、お集まりいただきました。ご案内の通りコロナが大変な状況になっておりまして、今、6月末の高齢者の接種完了に向けて、どこの自治体も必死になってがんばっているところでございまして、湯梨浜町でもご多分にもれず、ちょっとの間推計しましたら、数が足りないんじゃないかと、受け皿の数がですね、そういう事もありまして、というのも、計り知れない要素がいっぱいあって、そもそも5,600人ですけど、対象者のどの程度の方が受けられるかという事がまず、ハッキリ今の段階で言えません。経験値もどの町でもあるわけではないですから、そこをいくりに持って行くかという事がありますし、それから、医療機関の方でどれだけ最終的に取れるかというのがまだ、それも十分に分からないというような事の中で、模索しながらやっていくわけですが、政府の方では12歳以上の子ども達にも、接種を今の方たちと同じ並びで実施する事を考えておられるようでございまして、そういう事にも耐えられるような形という事で、実は昨日も防災無線で流ささせていただきました、4月から7月末までの接種者数を704人ほど増やすことに致しまして、接種回数はその倍ですから1420程の事なんですけど、増やして、概ね集団接種としての町民の65歳以上の方の接種は確実に打てる体制は整えたと思って

おります。あとは町民のみなさんがご理解いただいて、ちゃんと受けていただく事、集団免疫を早く作る事が肝要だという風に思っているところでございます。今日ご審議いただきますのは、その令和2年度の事業の進み具合といいますか、そういう事の分析と、それから、会長さんの選任と聞いております。どうぞよろしくお願い致します。ひとつ見ておりまして、最初の資料の5ページに書いてあります、令和2年度の評価、第2期の総合戦略作って1年目の評価という事になるわけですが、その数があげてございます。この中で実は計画通りに進んでいる、それから計画より遅れている、それからもうひとつは未実施とか、そういうのは前回より減っているんです。コロナ禍の中という事で全体的にどんどん減っているのかなと思いますが、そうでもなくて、逆に達成済み、事業完了、計画以上に進んでいるというのは、その部分については前回よりも増えているという状況でございまして、これはどういうのかという事もあるんですけど、なかなかコロナ禍で、例えば国際交流の関係にしても、いろんな面で移住定住の促進関係にしても、進まないなあと実感できている部分がたくさんあります。そういった事はこれから一生懸命また取りかかって、挽回してまいりたいと思っておりますけど、そのちょっと前の長くなって申し訳ございませんが、人口のところを見ていただきますと、3ページですね、令和2年が出生数が120で、死亡数が203という事で、大変これ亡くなられた方の数が少なくなっています。実は去年の介護認定を受けられた方の数が、その前より60数名、湯梨浜町内で増えているという事、これは大事だと、コロナの健康被害というようなもので減ったんじゃないかと思って、内訳を見てましたら、実はその亡くなられた要介護の認定を受けられていた方で亡くなられた方は20何名で少なくて、それで大きな原因の一つだったんですが、やはり健康維持のために適度な運動をしたり、人と会ったり、いろんな楽しみをされるっていう事も必要だなというような事も認識したところでございます。こういう年に移住の方が上手くいってれば、ひょっとしたら久しぶりにプラスになったんじゃないかなあと、コロナを恨みに思っておりますけど、まあそのような気持ちでおります。みなさんには大変これからまた2年間大変お世話になりますけど、どうぞよろしくお願い致します。ありがとうございます。

(事務局)ありがとうございました。会議に入る前に、資料の確認をさせていただきたいと思っております。最初に令和3年度第1回ゆりはま創生総合戦略会議という事で、統計表のものがひとつ。それから資料4つて書いてあります、10ページから資料5になってますけど、分厚い冊子、それから第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略、これが資料6、それからゆりはま「だえ」といういろいろの冊子をお配りしています。無い方がおられましたら、お知らせいただけたらと思っております。

3. 委員紹介(自己紹介)

(事務局)続きまして、委員の紹介ですが、前任者の任期が令和3年5月26日までになっておりまして、今回は新たに15名のみなさんに委嘱をさせていただきました。委員さんの名簿は一番最初の資料をはぐっていただきまして、2ページ目に付けさせていただきます。任期は令和3年5月27日から2年間となりますので、よろしくお願い致します。時間の都合もございまして、新たに委員になられましたお二人にここでご挨拶をお願いしたいと思います。最初に鳥取銀行羽合支店長、木山様よりお願い致します。

(委員)4月より鳥取銀行羽合支店長をやっております、木山と申します。出身は米子市です。いろいろと湯梨浜町のお役に立てればと思っておりますので、よろしくお願い致します。

(事務局)続きまして、倉吉公共職業安定所の所長、山岡さんをお願いいたします。

(委員)みなさん、こんにちは。この4月から倉吉公共職業安定所の所長としてまいりました、山岡と申します。よろしくお願い致します。私は倉吉のハローワークが最初の採用でして、久しぶりに倉吉にまた帰ってきました。前は平成27年まで倉吉に4年程いまして、6年ぶりくらいに帰ってきました。中部地区の発展のため、また湯梨浜町の発展のために努力していきたいという風に考えております。よろしくお願い致します。

(事務局)ありがとうございました。

4. 会長・副会長の選出について

(事務局)続きまして、会長、副会長の選出に移りたいと思います。要綱の第5条第2項に会長、副会長は委員の互選により定めると書いてあります。ここで委員のみなさまの方からご意見等ございましたらお願い致します。

(委員)出来れば、前任の会長さん、副会長さんに継続していただければと思います。いかがでしょうか。

(事務局)ありがとうございます。今委員の方から、会長に鳥取看護大学・鳥取短期大学の山田理事長様、また、副会長に女性団体連絡協議会の井土理事様に引き続きお願いしたいという意見がございましたけど、みなさん方の方はいかがでしょうか。

(全員)異議なし。

(事務局)異議なしというご意見をいただきました。そう致しますと、引き続きではございますが、山田理事長様に会長、井土理事様の方には副会長という事でお願いを致します。

5. 会長あいさつ

(事務局)それでは、要綱第6条第1項によりまして、以降の進行を山田会長の方にお任せしたいと思います。その前に、山田会長、井土副会長の方にご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

(会長)引き続き会長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。総合戦略会議、少し復習してみたいと思うんですけども、第1期の総合戦略は平成27年から令和の元年までの5年計画でした。第2期が昨年度、令和2年から令和6年までという事で、何を大きなポイントとしているかっていうと、やはり人口というものをそのまま放っておくとどんどん減ってしまう。これをどう食い止めるか、あるいは減るにしても、減ったところでどう対応したら一番いいんだろうかっていう事を頭に入れながら、ひとしごと、あるいはまち、っていうものの重要な指標を作って、事業を進めていこうと、そしてそれをPDCAでちゃんとチェックしながら、ちゃんと達成したのかどうかこれをやっていこうというものです。昨年度、湯梨浜町の総合計画が出来ましたが、多分それと連動しながらあるいは中核部分の事業を担いながら総合戦略を動かしていくっていう事だろうと思います。出来れば、11時半には終わりたいと思います。どうぞ活発なご意見をいただきながら意義ある会にしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

(副会長)女性団体連絡協議会から参りました、井土と申します。重責でございますが、なんとか務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

6. 湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る KPI 及び具体的事業の進捗状況と取組状況について
(会長)では、会の運営を務めさせていただきます。初めに、6. 湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る KPI 及び具体的事業の進捗状況と取組状況について、事務局からご説明をお願いします。
(事務局)レジュメの3ページ、資料1でございます。湯梨浜町の人口の動向からお話しさせていただきます。

【資料に沿って、以下を説明】

- ・資料1「参考資料:湯梨浜町の人口動態」
- ・資料2「湯梨浜町における移住の傾向(参考データ)」
- ・資料3「湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況」
- ・資料4「第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略 重要業績評価視聴(KPI)一覧」
 - 基本目標Ⅰ 活力ある元気なまち
 - 基本目標Ⅱ 安心して暮らせるまち
 - 基本目標Ⅲ 町民みんなが創るまち
- ・資料5「第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略」

『R2事業実績』

- No13:特産果物生産振興事業
- No18:グラウンド・ゴルフ国際化及び潮風の丘聖地化の推進③
- No21:天女のふる里づくり事業②
- No30:食と健康のまちづくり事業
- No48:不妊治療費助成事業
- No54:放課後児童クラブ・放課後子ども教室の推進③
- No60:地域で取り組む介護予防活動推進事業
- No65:鳥取看護大学による「まちの保健室」との連携
- No66:SIBを活用した飛び地型自治体連携事業(食と健康のまちづくり事業)
- No67:全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」事業の推進①
- No74:空き家情報バンク活用促進事業
- No79:若者夫婦・子育て世代住宅支援事業
- No82:住宅取得仲介報酬助成事業
- No88:全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」事業の推進⑥
- No97:買い物難民対策事業
- No100:ICT 推進事業②
- No102:ふるさと納税推進事業
- No103:企業版ふるさと納税推進事業
- No104:ゆりはまフェローを核とした関係人口推進事業

『R3事業計画』

- No7:農林水産物販売促進事業
- No12:ゆりはま農作業体験ツアー事業
- No26:ワーケーション推進事業

No39: 中学校跡地施設活用事業

No73: 移住定住者住宅支援事業②

No76: 結婚新生活支援事業

No101: デジタル活用推進事業 以上でございます。

(会長) 初めに人口の増減の話、それから令和2年度のKPIの話、令和3年度の取組みという3つの事のお話がありました。どの分野でも結構ですので、ご質問やご意見がございましたらお願いします。いかがでしょうか。はい、お願いします。

(委員) 私から2点、質問じゃないんですけど意見っていうか、昨年度子どもを出産しまして、湯梨浜町さんの子育て政策、すごく助けられていろいろ活用させていただいてるんですけども、その時に思ったのが、助産師の無料派遣、本当にありがたいんですけど、初めて子どもを持った方ってやっぱり、すごくたくさん不安がありまして、利用する際にどうしようもなくって電話したんですけども、まず役場に来てくださって言われて、生まれたばかりの子どもを車に乗せて役場まで行かないといけないのかという、役場には行ったんですけど、その後申請書を書いて、今度はすぐ助けてほしいのに結局いろいろ調整がかかって、2週間後になってしまったような事があって、かなりこれハードルが高いなど、まず申請を筆記でやらないといけないっていう事と、利用までに時間がすごくかかってしまう。どうしようもないところもあると思うんですけど、例えば、湯梨浜町さん子育てアプリを公表されているので、そこで例えば申請が出来るようにするとか、そういう手続きを使って先に登録してしまって利用してしまった後で、電話とかでも申請が出来るようになるとか、そういうような利用者にとって分かりやすいようにしていただければなあというのが1つあります。それからもう1点、実は親族が新しく家を建てたいという事で、土地を探しているんですけども、出来れば自然豊かなところで、子どももいるのでそういう場所を探しているんですけど、なかなかなくてですね、古いお家を例えば買わせていただいて、それを建て替えというか、撤去することも含めて検討してるんですけど、インターネットで探しているんですけど、そもそもそこに情報が出ていないっていうのがすごく多くて、ただそういうものを求めていらっしゃる方もいると思うので、とにかくインターネットにいろんな情報を公開していただく事が、そういうようなニーズにも応えることが出来るんじゃないかと思います。

(会長) ご意見ですけども、何か、担当課、はい、お願いします。

(課長) 子育て支援課です。今の話はどの制度の分を言っとられたでしょうかね？

(委員) 助産師さんの派遣の方を。

(課長) 実は助産師さんとの日程調整が入ったりするもので、助産師さんがうちだけじゃなくて、いろんな町村も受けとられるものですから、その点でもしかしたら、日程がすぐっていう事にならなかったんじゃないかなあっていう風に、いい訳になってしましますが、そのように考えております。確かに初めてのお子さんをお持ちになられた方っていうのは、いっぱい不安があると思うので、助産師とは言わなくても保健師がとにかく、今コロナ禍の状況ではありますので、新生児さん訪問にあたって、ご自宅でのお子さんとお母さんの体調の確認から、保健師の方の確認を双方事前にして、また改めて訪問前にさせていただくという事で出来るだけ、面談をしながらという事で、出来るだけ行うようにしております。やはりアプリで相談業務をするとしても、やはり、あっ、これを忘れてたとか、子どもさんなり、お母さんに直接会ってお話しすると感じるものっていうのがやっぱりあると思うので、出来るだけ訪問するよという事でお話をさ

せていただいております。確かに事前予約を取れる取れないってところが、自分のニーズに合っていないって事はたくさんあると思いますので、その外部の方のほうを頼るっていう事ではなくて、保健師が出来るだけ訪問させていただく方法で、そこを何とかクリアできるようにさせていただければという風に考えております。申し訳ありません。

(課長)企画課です。よろしくお願いします。2点目の不動産関係、建築場所の検索にあたってという事ですが、これにつきましては当然不動産業者がやとられると思うんですけど、湯梨浜町の方で例えば、企画が持ったりする町の土地開発公社の分譲地であるとか、または空き家情報バンク建物の関係、みらい創造室で担当しておりますレークサイド・ヴィレッジの関係、町のホームページを見た時にそれぞれ各担当分野によって、ページが分かれてちょっと検索しづらいという事もあろうかと思っておりますので、こういったところを集約した形で1ページでより速やかに検索できるような工夫をしていきたいと思っております。以上です。

(町長)今のお尋ねは空き地の部分について、空き地が分るような事が出来ないかっていうご主旨だったんで、そのことについてお答えしなきゃならないと思ってますけど。そういう切り口でおそらくきちんと載せているのは無いと思っておりますけど、空き家と同様におっしゃったように、新たな土地を求めて建てたいっていう方もあるわけですから、そういう事が果たして、業界の協力もいる事になりますんで、そういう不動産業者さんの、出来るかどうかわかりませんが、なるべく出来るのならその一連の紹介の中に、そういった物を加えることが出来ないか、研究させていただきたいと思っております。

(会長)よろしいですか。他にいかがでしょうか。ちょっと僕の方から、初めの人口のところの、社会増減でコロナの状況の中だと、一般論から言えば、比較的鳥取やあるいは湯梨浜の方に移りたいって言う人は多いんじゃないかっていう感じがするんですが、ちょっと出ていく人が多かったんですね、今回、そこら辺をどういう風に分析されているか、お願いします。

(事務局)みらい創造室の方からお答えさせていただきますが、数字としておっしゃる通り、思ったより転入される方が少なく、逆に県外に出られた方が多かったという事でございます。人口構成など、住民担当からデータを貰って調べたりしたんですけど、出られる方につきましては、やはり20代が、だいたいどの年も多いという流れでございまして、出られる方につきましては特に傾向として見つかる事はなかったんですけど、ただ、表をみていただくと、3ページのところの下の表でございまして、例えば平成26年、28年あたりも240の後半、出ているところもあつたら、その次の年に210とか213とか、減ってきているという、いわゆる30~40ぐらいの幅で増減はあるんですけど、また去年今年と高いレベルで県外への転出者が増えているという状況かと思っております。近隣の様子も調べたんですけど、中部地区で本町と人口レベルが似ている琴浦町、大体これぐらいの人数で県外の転出の数はあるようでございます。具体的な理由ってというのが、つかみにくいところもあるんですけど、そういう状況でございます。

(会長)はい、まあ、そのような事だという認識で・・・。

(町長)今会長がおっしゃいましたように、こういうコロナ禍で、鳥取県はとりわけ、安全な地域だというような事も全国のみなさんにある意味知っていただけたという要素もありますんで、ここでせんと、という気持ちは持っているんですが、なかなかその活動が出来ないという事が裏面にありまして、何をやろうにも、東京なんかに行ったりすることも出来ませんし、そういう状況もあって、なかなかそういった意味では進みにくい面が障壁になった、これはいい訳ですけど。そのような要素も多少あろうかと思っております。

(会長)他には、はい。

(委員)今もお話のありました、移住定住促進に向けての事業ですけど、これまでおそらく個人の方が移住していただくという事をメインにやってこられたのかなあという気がするんですけど、こういうコロナって事もあって、おそらく首都圏からでも、企業の一部がサテライトオフィスのようにやっていくという事が出てきてるんですけど、個人の方をターゲットにするっていうのも今後必要ですけども、今後は企業とかにも働きかけて、自然豊かなところで、環境の良いところで仕事が出来るといものを売りにしながら、休息も含めて、人間らしい生活が出来るところで、企業向けに移住の促進っていうのは、出来るような部分があればいいのかなあと思ったりしてまして、その取組が出来ないかなあというところなんです。

(会長)それが先ほどのワーケーションとちょっと絡んでるのかな？どうでしょう。

(課長)産業振興課です。よろしくお願いします。今ありました、今年ワーケーションっていう事でPRに取り組んでいこうかなという風に考えておられて、これだけ観光面だとか、自然が豊かであるという事で、旅館、温泉もありという事で、旅館でありますとかそういった部分、今ワーケーションという事で、要するにこちらに滞在していただいて、休暇を過ごしながら、仕事があればネット環境の整ったところで、仕事もついでにしてもらうという事のPRをしてるところで、旅館でありますとかそういった部分で、もし、プランでありますとかそういった企画をどんどんこちらの方で発信しながら、そういったようなところに売り込んでみようかと、また町内にはお試し住宅がありますので、そういった部分でも長期滞在しながらでも、仕事も出来る環境も整っておりますので、そういった部分での県外へのPRをどんどんしていきたいなあと考えているところなんです。企業につきましても、そういったPRの中で、どんどん発信していけば中身も見ていただけるだろうと思いますし、またPR動画などもこれから作って、そういった物をどんどん発信していけば、そういうところもPRになるのかなあと考えているところなんです。

(会長)他はいかがでしょう。

(委員)1ページの温泉宿泊客数と観光についての意見なんですけど、まずは、令和2年度、湯梨浜町様におかれましては、観光業、我々商工業者に対しまして、大変さまざまな施策を打っていただきまして、この場を借りてお礼申し上げます。ただ、まだコロナの状況が見通しが、ようやくワクチン接種が始まりましたけど、商工業、観光業者の試練は相当長い期間続くものと思われれます。例えば今温泉旅館なんかで、県外客っていうのは、はわい温泉・東郷温泉の中心が関西圏であったり、山陽圏が中心であったりして、その両方が今緊急事態宣言が発令されてまして、その集客が見込めないという事で、町内あるいは県内のお客さんを取り込みたいという思いがあるように思いますので、例えば今 We Love 山陰とかあるいは先日発行しました商品券というものを、県民、町民向けにPRしていただきたいなど、例えば町のホームページであるとか、観光協会のホームページであるとか、ゆりはまフェローズでありますとか、商工会でありますとか、いろいろなメディアを使って、We Love 山陰はこういう事に使えます、あるいは、We Love 山陰とゆりはま商品券が併用できますというような商品、紹介を随時行っていただければと思います。要望です。

(会長)はい。

(課長)産業振興課です。今いただきました We Love キャンペーン、昨年からおこなっておりまして、県の事業の We Love をおこなっておりまして、それを含めて、町内では、はわい温泉、東郷温泉の宿泊感謝割引キャ

ンペーンというものをやっております。本年度も基本的にそういったものをキャンペーンを進めていきます。今言われたようにそういった情報提供ですね、いろんな部分で発信して行って、みなさんが活用できるような形で、もう一度検討して対応していきたいと思います。

(会長)はい。では2番目のところについて、時間が余ったらまた、ご意見伺いますので。

7. 第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

(会長)次のところで7番目ですけど、第2期湯梨浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について、ご説明願います。

(事務局)はい。資料6で説明させていただきます。こちらは昨年3月に策定した第2期の総合戦略につきまして、基本的な戦略の内容は変わりませんが、令和2年度の事業が終わりまして、先ほど事業説明の中で触れましたように、具体的な事業につきまして、統合・廃止や新たに項目にあげるべき事業など、改訂をさせていただきたいという事で、それを赤字で示しております。具体的な施策という事であげてるうちに赤字で斜線等しているところが、該当の分でございます。それとKPIIにつきましても6ページ、事業承継に着手した事業者数を5事業者から11業者とする事、それから12ページ小さな拠点の数を1地域としていたところを小さな拠点づくりにおける地域活動団体を1団体に变更させていただく2点について改訂をさせていただきたいと考えております。以上です。

(会長)先ほどの説明を踏まえながら、第2期の改訂、これは承認がいるという事なので、先にさせていただきました。なにかご意見はございますか？よろしいですか。じゃあ、事務局の提案の通りにご承認いただくという事で、よろしいでしょうか。

(委員)異議なし。

(会長)はい。それではもとに戻りまして、もちろん今の総合戦略のところ、あるいは、前の部分の進捗状況、あるいは要望でも結構ですので、またみなさんからご意見等ございましたら、よろしく願います。いかがでしょう。じゃあ、ご意見がなければパスで結構ですので、今発言された以外の方、ずーっと回ってきますので、願います。何かあれば、なければなしで結構ですから。どうぞ。

(委員)今、湯梨浜町で新しいまちづくりに取り組んでおられるところなんですけど、今考え方としまして、まちを作って終わりではなく、そのまちをどう活用していくかという事がテーマになっているようです。その事を見据えた、新しいまちづくりにも取り組んでいただきたいと思いますと思っているところです。以上です。

(会長)はい。というような視点を是非お持ちください、という要望だと思います。願います。

(委員)ゆりはまヘルシークラブというのを私自身が知らなくて、どんなお店にどんなメニューがあるのかっていうのを、フェイスブックとかSNSで広げていったら良いのではないかなあと思いました。

(会長)これは？

(課長)健康推進課です。貴重なご意見をありがとうございます。今ホームページですとか、アナログですけど、いろんな会議とかで連絡しよるんですけど、情報発信が少ないという事のご意見だと思います。いろいろその辺りも含め考えながら取り組んでいきたいと思っております、ありがとうございました。

(会長)よろしいですか。願います。

(委員)先ほど私も聞きたかった事が出てしまいましたけど、まず、ワーケーションの推進事業についてお尋

ねしたいんですけども、先ほどのお話では、旅館とかを対象に考えてらっしゃるという事でしたけど、他にも取り組む企業があるんじゃないですか。それとかどういった場所を想定して、ワーケーションを活用していきたいのかなというのを知りたいと思いました。あと今ゆりはまヴィレッジの全体的な進捗状況もお伺いしたいと思います。以上です。

(会長)はい、お願いします。

(課長)産業振興課です。ワーケーションなんですけど、これからの取組みというのがあるんですけど、旅館といいました、一部の旅館が、ホームページといいますが、そういった物を契約されている旅館もありますし、一部の旅館で一時ワーケーションプランを発表されていた旅館もあつたりします。そういった中で、そういった取組みをされているところを町も一体となりながら、そういうところもPRしていこうかというような事を考えておりますし、もうひとつは先ほど言いましたお試し住宅、こういった部分も活用して町内に人を呼び込んでくる、というような事をやってみたいなと思っています。

(事務局)レークサイド・ヴィレッジの進捗につきましてですが、4月時点で売り出している住宅地の67区画中、現在54区画が、売約と、販売が進んでいるという事でございます。それと福祉事業さんですね、2事業者さんが既に事業を、今建築中のものもありますけど、グループホームと介護支援施設を建設したり、始めておられるという事でございます。あと計画の中で上がっているものもありますけど、その進捗につきまして、進めているところでございます。計画の中に商業施設だとか福祉に関する事業もありましたけど、そのところは調整しながら進めているところでございます。以上です。

(会長)はい。

(委員)やはり事業承継を注目しております、昨年度は5件、商工会の方でやられたという事なんですけども、今年度KPIの方も乗せられるという事で、当方でもですね、廃業を止めたい一心で、事業承継に力を入れておまして、県内のお客様同士であれば、事業引継ぎセンターというところがあって、色々やってもらうことがあると思うんですけど、いろんな方の話を聞いておますと、やはりどうしても売りたい、買いたいという話がちょっと漏れた瞬間に、だいたい同じ業界で見当がついてしまうみたいな事が発生しているようでして、なかなか上手く話が進まないという声が聞こえてきたりしております。私どもも事業承継をホームページからやってるんですけども、全国ベースでご希望があれば匿名で、情報を載せられますので、もしもそういう方がいらっしゃいましたら、商工会さんとともに事業承継にどんどん力を入れていきたいなあと考えておりますので、県内ではなくて、県外の方に売りたい、買いたいというものがございましたら、お声かけをいただければなあとと思います。以上です。

(会長)はい、意見を受け止めさせていただくという事でいいですか。じゃあ、お願いします。

(委員)新型コロナウイルスの影響で緊急事態宣言の延長もあって、それに関わる事業等の方が売り上げ減少で困つとられる人が多いと思います。そこでこのままでは今後、町内の事業者さんが事業廃業がどんどん増えていく話で、そうすると地元の事業収入、勤務する従業員さんの雇用確保っていうのが、どんどん難しくなる可能性があると思います。そこで事業継承であったり、従業員の生活を支援する補助金というのを、引き続きお願い出来ればなあと、いう事と、あと、ビジネスマッチング等、積極的にしていく必要があるのではないかなあという気がしています。

(会長)という意見を受け止めておけばいいですか。はい。

(委員)私の方でももしよろしければ2点ほどお許し願いたいと思います。先にこの資料4の33ページ、66項

のSIBを利用した飛び地型自治体連携事業、食と健康、タニタさんですね、健康SIB事業の件でございます。こちらにおきましては、鳥取銀行さんと山陰合同銀行の方で事業の一部に参加させていただいております。こちらの方で、一番最初に会員数を、地元の会員数を増やしていくという事だと思っておりますけど、初年度の会員数は目標350名に対して、412名という事で、計画を上回る成果をだしております。このコロナ禍ではありますけど、密な環境になりにくくて、町民、個人個人のペースに合わせる事が出来る、特殊な事業をしている、また順当に会員数の増加を目指していかれるものと思います。ただ、最初の時期は、初年度とか2年目の前半くらいは、この事業に理解がある方とかもしくは賛同いただける一定の層があって、そこからの会員の入会も多いと思うんですけど、この機を抜けることによって、だんだんと増加していくペースとか認知する側も鈍化していく懸念があるんじゃないかと思っております。我々もいろんなお客様にいろいろと商品提案していて、日がたつにつれだんだんと難しくなっていくという事があります。ただこの事業自体は湯梨浜町民のみなさんの健康を維持・増進とか、フレイルに対して有効なプランだと思っておりますので、そういったまだ分からない方、会員になろうか考えていらっしゃる方にいかに浸透させていくかがカギになると思います。という事で確かこちらの方に関しましては、湯梨浜町以外も、他の3市町の自治体の参加もあるはずなので、その成功事例も反映させて、最終目標の1,400名を超える事業としてがんばっていただきたいと思っておりますけど、何か増加策でもあればお聞かせいただきたいと思っております。

(会長) どうでしょうか。

(課長) いろいろと貴重なご意見をありがとうございます。会員さんの獲得というのが一番懸念されてるという事もありまして、個人さん、企業さんを含めて、昨年度はいろいろとご協力いただき大変感謝しております。令和元年度末くらいに133名の会員だったのが、令和2年度は350名、令和3年6月1日現在で447名という事で、この取り組みも順調にきたのかなと思っております。おっしゃるように、会員数が鈍化していくというのは、我々も承知しておりますので、その辺りは工夫が必要かと思っております。この取り組みの中で健康の維持・増進、健康寿命の延伸ですとかフレイル予防という大きな命題がありますので、特にこの事業ではKPIとして80歳以上の高齢者を会員の15%以上獲得するという風な別の側面もあります。我々健康増進のセクションだけでは、ちょっと心もとないというような事もありますので、長寿の長福祉課ですとか、スポーツの関係は生涯学習とかいろいろな形で横展開をしながら、会員数の増加を図っていきたく思いますし、この取り組みを多くの方に知っていただけるように、さまざまな形で情報提供の方を進めていきたく思います。貴重なご意見をありがとうございます。

(会長) よろしいですか。じゃあ、お願いします。

(委員) 私は感想という形になると思うんですけど、鳥取市に住んでおまして、鳥取市のいろいろな子育ての支援とかですね、湯梨浜町内の町の支援を比べると、若いころから、旧羽合町は、子育てがしやすいところ、保育料が安いというような事は以前から聞いておったんですけど、今日この資料を見せていただいて、たくさんの子育て支援、それから移住定住に関しては、住宅の建設費用なんかの補助とかいろいろ支援があって、町内に人を呼んで、子育てのしやすい町だなあという風につくづく感じたところです。これについて鳥取市の人間から見ると人伝に聞いてはおったんで、知ってた部分もあるんですけど、県内の湯梨浜町外の人に対して、こういうPRがどうなのかなあ、足りないのかなあ、っていうところを感じたところです。実はうちの近所の人、近々湯梨浜のレークサイド・ヴィレッジっていうんですか、

そこにどうも家を建てて転出する人があるわけですし、そういう情報を知って転出されるのかどうか分かりませんが、町外からの人間から見ると、そういう情報が町外の人には、なかなか伝わってないのかなという風を感じました。それとコロナの関係ですけども、湯梨浜町、特に温泉地がありますので、観光・宿泊関連の事業者が多いと思います。今コロナの影響で宿泊者が少ないとかいう事で国の厚生労働省の制度で、雇用調整助成金それから緊急雇用安定助成金、そういったところで雇用維持を図っているところですが、この湯梨浜町内の事業所からですね、雇用調整助成金は30社、延べ207件、5月25日現在ですけども申請が上がります。また、緊急雇用安定助成金、これは雇用保険に入っていない労働者向けの給与補助金ですが、こちらは12社、74件という事で、雇用調整助成金と緊急雇用安定助成金を両方申請される企業もありますので、雇調金が30社、緊急金が12社、42社が申請しているという訳ではないですが、こういう風な状況になっておりまして、町内からの申請は、特に宿泊関連からの申請が多いという事でございます。雇用調整助成金につきましては、6月末まで延長と、特例措置は延長という風になっておりますが、若干助成金額の上限も引き下げられておりまして、だんだんと通常モードに戻つつあると、いう状況になっております。雇用の維持を図るためにも、町として何らかの事業所への支援策も検討していただく必要があるのかなあと、このままいくと助成率が下がっていくと、雇用は維持できないという企業さんも出てくるのではないかとこの危惧をしております。そちらの検討もよろしくお願ひしたいと思います。

(会長)これは、受け止めさせていただくという事で、では。

(委員)日頃私が思っている事の中で、この地域、地域で住民を増やすっていうのを各市町村やとられますけど、ただあまりにも小さいんじゃないかなあと思うんです。もう少し器を大きくして門戸を広げて、大きな声で叫ばないと、「湯梨浜町だ」と言ったら、今中部には中部広域という組織もありますから、そういうものを使いながら、要するに人口を増やそうと思ったら、まず、働く場所がない事には増えん、いかに住宅施設を、住宅地を作ろうとそういう風に私は思ってますので、ただ、数年前企業の引き上げが、どんどんそんな時期がありましたね、ああいう事のないような、もっと確かなというか、働く場所の確保も、私は各自治体単独ではなくて合同でやっていくっていう事を本当に真剣にしないと、鳥取県だけじゃなく、いろんな地域が合同で大都市圏の周りにアピールしないといけないかなと思います。行政の方が大きな声をしていただくところから始まっていくんじゃないかなあと思います。以上です。

(会長)はい、じゃあ最後に。

(委員)今私は羽合地区に住んでるんですけど、羽合の周りの田んぼが埋め立てられると、住宅がどんどん建ってるんですね。みなさんほとんどが、1年以内にほとんど土地が埋まってしまっている状況なんですけど、各地区の割り当てというか、地区ごとがすごく広がっておりまして、区長さんとか班長さんになられると、広い範囲を担当しないといけない状況になってきます。ですからその辺を何か考えてくださっているのかなって思ったりします。それと女性団体として今15団体が湯梨浜町の女性団体として活躍はしてるんですけど、各団体として女性の会員数がどんどん減ってきてまして、ボランティアをするって言う気持ち、女性の方に多分薄れてるのか、世帯状況がそういう状況になっているのか、今女性団体として成り立っていくのが心配な状況になってきております。その辺をちょっと何か考えを教えていただけたら助かるなあと思いました。

(会長)人口の増減によって地区の割り当てが変化している、なにか行政の方で、それはどこの担当？

(課長)おっしゃいました、長瀬地区、中部から長瀬西部にかけて、旧北溟中学校のあたりまで、どんどん家が建ちつつあります。もともと中部っていうところは非常に広範囲なところで、国道を挟みまして、両方にあるので、大変でございます。他の地区も大変でございます、住所のはわい長瀬っていうのがほとんど、上浅津までがはわい長瀬ですので、広大な土地で、そこで、区を作られておられます。ただ、区の行政側につきましては、やはり地元の方のご意見で区が形成されるというところでございます。今先ほどご案内のありましたレークサイド・ヴィレッジについてもですね、多分地元の方、新しく住まわれる方を中心として、新しい区が形成されるのではないかなという風な事を考えておりますので、またいろいろとそこら辺ですね、区を作るにしても班を作るにしても地元の方と十二分に協議をさせていただければと思います。以上です。

(会長)女性団体の事は行政が答えるのはかわいそうですね。みなさんの中でまた別の機会に。他にみなさん方もうちちょっと言っときたいという事があれば。はい、お願いします。

(委員)そうしますと湯梨浜町さんの創生総合戦略全般に対してという事で、今喫緊の課題はコロナ禍に対する事業の支援であるとか、ワクチンの早期接種によって医療崩壊を止める、これが喫緊の課題だと思います。ただし、湯梨浜町さんの総合戦略の基本部分の方には持続可能な開発目標のSDGsっていうのが書かれておいでです。近年急速に、日本国内ないしは海外の方で注目されています、脱炭素、カーボンニュートラルといったところの流れです。政治や経済の枠組みを通じて、われわれの生活に大きな影響を及ぼしてくるのではないかと思います。ただ国とか産業団体の指針とか法整備とか、今後具体化していく物だと考えますけど、一方で大手の海外企業などが脱炭素の取組みをして、実践している企業であれば優先的に契約していく、そういった企業の流れ、動きも始まっています。また、湯梨浜町さんの総合戦略においてもですね、今すぐというわけではないですけど、コロナ禍が収まった、若しくはある程度落ち着いてくる中で、並行してそういった流れを取り入れるのではないかと思います。ちょっとこれはたまたまネットの記事で参考ですけど、伊香保温泉さんがカーボンニュートラル、脱炭素の宣言を行われました、伊香保温泉の方もコロナ禍で大変なという事ではありますが、地球温暖化対策をその中で、伊香保温泉全体で温室効果ガスの排出量を把握した上で、削減目標を設定して、省エネや自然エネルギーの利用や、クリーンエネルギーの開発事業にも投資をするという事で、カーボンニュートラルということで、地域地域単位でそういった事を、コロナ禍が収まるのが我々の一番の願いでありますのでそれが収まる時にそういった取り組みの方も検討されたいかがかと思いました。以上です。

(会長)ご意見として受け止めておきます。よろしいですね。他は？はい。

(委員)5ページのこども園の待機児童数が令和2年度は、0人となったという事で、2歳未満児の家庭での保育の推進の効果があったと思うんですけど、その一方で羽合地域から泊のあさひ、わかばこども園に入園されている数というのを、令和3年度の実績数を教えていただければと思います。

(会長)今ですか？

(課長)今資料を持ってきてないので、ちょっと即答っていう訳にはいかないですけど、あさひに2名だったと思います。わかばが、今3年度の話をしておりますけど、わかばが10名程度だったと思います。確かな数字ではないので、また改めて、ご連絡させていただきます。

(委員)それで一方で園の、特にあさひこども園の、入園者数が減っております、昨年度から、3歳児と4歳児が、複合クラスになっております。数が少ないので、保育面では、複合クラスが良い面もありますけど、

現在、幼保一体となっていますので、教育面に関して、やはり複合クラスというのはデメリットがあると思うんですけど、なるべくその複合クラスを解消していただきたいという思いがありますし、一方わかばは増えすぎて定員60人に対して50何人になつとります。わかばは設立した当初から複合クラスを1部屋設けておまして、その辺が、今度は複合クラスの方が膨れ上がっていくという、メリット・デメリットも考えられますので、なるべく複合クラスの解消という事を行政には考えていただきたいと思ひますし、その辺りは、会長さんの3歳児、4歳児の複合クラスの良い面、悪い面っていうのをどのようにお考えか教えていただければと思ひます。

(会長)僕ですか、正直両方ともあると思ひます。縦系列でやった方が人間関係が上手くいく場合もあるし、やはり発達段階できちっとやるっていう事で両方あるんで、一概にスパッときれないだろうと思ひますので、出来れば選択できれば一番良いと思ひますけど、そうせざるを得ないというところが、ちょっとしんどいかなあっていうのは事実だろうと思ひます。ただ、全体的に増えてるという話ですけど、全体的にみるとこのこども園も保育所も、子どもがなかなか集まらない時代になってるっていうのは事実なんで、これからどういうこども園の規模でいっていかっていくのはむしろ議論になってるとこだと思ひます。今はすぐ過渡期で、先をどう見るかっていう時期であることは間違いないと思ひます。教育的にはどっちがいいかっていうのは、本当に両方あると思ひます。

(委員)現在、たじりこども園の検討をされてると思ひますが、その検討委員会の会議録をホームページで公開していただければと思ひますので、よろしくお願ひします。以上です。

(会長)他には？では町長さん、全体としてなにか？

(町長)はい。ありがとうございました。今日はなかなか、普段私たちの考えている部分で、欠落しているところですか、あるいは、その方法について、もう少しダイナミックに、町単独っていう事ではなくってというお話をいただきまして、ふっとそんな風な話を聞いたのは、例えば岩美と湯梨浜と大山と組んで、何かやるっていうのは面白いかなと、里、山で連携して、三町なんとかやってやると、ひとつのやり方かなと思ったりしたところでして、本当にいろいろな意見をお伺いしてありがたかったです。ちょっと答弁していた中で、ゆりはまレークサイド・ヴィレッジの件についてですけど、町営住宅部分について、今ちょうどこれから入札にとりかかる準備を進めておまして、夏ごろには、町営住宅の相手方業者も決まって、8月ごろにはいよいよ工事の方に入っていくという段取りになろうかと思ひています。それともうひとつはご指摘がございました、事業者支援ですね、これについて湯梨浜は比較的、商工業者に対する支援っていうのは、割と力を入れている方です。国の事業給付金のような形で20%以上、やられたところに最大200万円給付するっていうのを昨年やったんですが、今年度もコロナが長期化しているっていう事があって、多少充実させて、215万円を上限に支給するっていう制度を設けたりとか、いろいろな形で、旅館も先ほどお話がありましたけど、バラエティにある意味富んだやり方でやってみますから、これまでの施策とか、今言ったような事とか、一覧表を届けさせていただければと思ひてお願ひしますが、大事な事なのでしっかりやっていきたいという風に思つとります。それからお話いただきました、SIB に関しましては課長が申し上げましたように、単一の課でやってもこれはとても無理な話で、庁内的には課の連携をしていくというのがひとつ、もうひとつは動機付けです。入られた方に、私この会に入って、私こんな事が知れて良かったとか、そういうチャンスを充実して提供していく事が、ちょっと必要なあと、今コロナでなかなか思うようには進まない部分はあるんですけど、そのような気持ちを持っております。これからやってまいりたい

令和3年6月1日

と思います。そのような事を感じたところでございます。今日はいろいろ、この会のあと議事録も作るでしょ？またひとつちゃんと公表すると思いますし、読み返して一つ一つ点検して、取り組んでまいりたいと思います。ほんとうにありがとうございました。

8. その他

(会長)それではその他のところで、事務局の方から今後の日程をお願いします。

(事務局)はい、次回の会議の開催は令和3年度の進捗状況と、新年度予算および総合戦略へ反映させるための協議という事をお願いしたいという事で、12月上旬ごろに予定させていただこうと思っています。また、ご案内させていただきますのでよろしくお願いします。以上です。

9. 閉会

(会長)それでは、みなさんどうもありがとうございました。今日の会はこれで閉じさせていただきます。ありがとうございました。